**第４９回登別市市民自治推進委員会　育み部会議事録**

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和３年２月２日（火）１７時３０分～ |
| 開催場所 | 鉄南ふれあいセンター　３階ホール |
| 出席者 | （部会長）　　神谷博達（副部会長）　安宅錦也（部会員）　　仲川弘誓、合田美津子、佐藤文子（読書活動家）松山哲男、高木三千子、須藤和恵、武者正樹（庁内委員）　近藤正嗣、重山大介（事務局）　　大越智輝、佐々木健、安倍一葉 |
| 欠席者 | 磯田大治、大坂倫一 |
| 議題 | 本を読むことを広めるための取組みについて |
| 配布資料 | 第４９回育み部会参考資料（部会長作成） |

１　会議の要点

　○読書活動家４名を招き、活動の状況や協働できる活動についてお聴きした。

（松山氏）

　・２０１２年に読み聞かせの養成講座を始め、講座のメンバーとともにＥＨＯボラという団体で子どもや高齢者向けの読み聞かせをしている。少子高齢化社会で、各年代がさまざまな問題を抱えている中、絵本を媒体に何かできないかという思いがある。また、絵本は子どもだけでなく、大人にも良い効果がある。

　・２カ月に１回行っているアーニスでの読み聞かせは、各回子どもが６～７人、親が３人ほどしか集まらないが、子どもたちは楽しんでくれているように感じる。

　・音楽療法士と協力した読み聞かせも行っている。

　・周知方法としてはアーニスに開催のポスターを掲示してもらっている。

　・定期的に開催したいと思うが、メンバーが７人しかいないため、準備に時間がかかり難しい状況。

（高木氏）

　・幌別中学校の図書ボランティアを１０年余り務めており、除籍・選書・卒業生のためのしおり作り等をしている。

　・須藤氏とともに、「おはなしぽけっと」としても活動している。

（須藤氏）

　・「おはなしぽけっと」は昭和５４年から活動しており、市立図書館で月１回のおはなし会、高齢者施設や児童館等での読み聞かせ、なぜ乳幼児に絵本が必要かの講演、大人向けの読み聞かせを行っている。

　・子どものときに読み聞かせに来た方が親となり、自分の子どもを連れてくる姿も見られる。

　・大人向けの読み聞かせでは、読み聞かせが心に染みるとは思わなかったとの感想を話す方もいる。

・講演や理論だけではなく、実際に読み聞かせを聞いてもらうのが大事。学校の先生にも一緒に読み聞かせを聞くよう伝えている。

（武者氏）

・まちライブラリーは、全国の約８００カ所で行われている活動で、床屋やカフェ、歯科医院、寺院など、みんなが本を持ち寄った場所がどこでも私設図書館になるというのがコンセプト。持ち寄った本にはメッセージカードがつけられていて、カードに読んだ感想を書くことで１冊の本で知らない人とつながるのが魅力。登別のまちライブラリーは２年活動して、現在は市内に８カ所ある。

・場所を広げることが目的ではなく、手の届くところに本がある活動を目指している。

○協働できる活動

・まず、子を育むだけではなく、大人も含めて育み合うことなど、「育む」の議論をしてはどうか。

・気軽に参加できる絵本に関する勉強会を開いてはどうか。ボランティアのお母さん方から読み方や選書について聞かれることが多いので、読み聞かせだけでなく、そういったアドバイスもできればいいと思う。

○絵本の寄贈を募り、自由に借りたり欲しい方に譲ったりするなどといった取組みについての意見

・家庭で眠っている本を持ち寄ってと市民に呼び掛けたら、反応は結構あると思う。

　・良書や心に響く本は手元に置いておきたい人がいるので、寄贈を募っても良書は集まりにくいと思うが、無いよりはまずは本を手にしてもらうというきっかけづくりと捉えるなら良いと思う。

　・大人向けの本も含めたいところであるが、絵本に絞り、例えば当面１年間やってみるのはどうか。人的・財政的な制約もあり、今の人材が動けるうちに種まきをするのが大事。

○アーニスでの読み聞かせについての意見

・とりあえずスタートしてみるのは良いと思う。

・日本で一番大きい規模のまちライブラリーがある千歳市も閉店したショッピングセンターを拠点に活動しているので、登別もアーニスでやるのはいいと思う。

・アーニスで市民が本とふれあい、コミュニティが広がる。まちづくりにもつながることができるのではないか。

○まとめ

・アーニスでの読み聞かせについては賛成。

・これに付随する本に関する取組みについて意見をいただいた。

・次回の部会においては、読書活動家の皆さんに具体的なお願いを伝えられるとこ

ろを詰めることとしたい。

２　次回について

　　日時：令和３年２月２４日（水）１７：３０～

　　内容：本に読むことを広めるための取組みについて